

十二月は、すべてを「し果たす」月とされています。今年一年の締めくくりを完全に、有終の美を飾りましょう。具体的には、後始末の実践を行ない、仕事の区切りを付けることです。特に、3S（整理・整頓・清掃）の実践に徹していきましょう。

まず「整理」です。必要なものと、不要なものとの区別して、不要なものを処分していきましょう。感謝の式をとって処分することはいままでもありません。

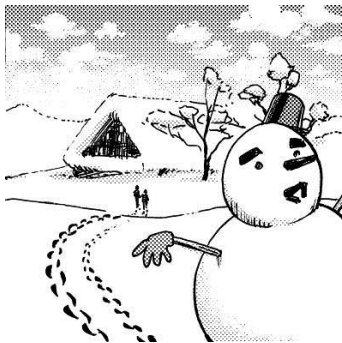
次は「整頓」です。必要なものを、誰にでも使いやすく、また、戻しやすいようにしておくことがポイントです。

例えば、事務机の中を見てみましょう。A社では、社員の机の中に、鉛筆やボールペン、計算機などの事務用品の形に切り取られたスポンジマットが敷かれています。すべてがピタリと収まり、すぐ取り出せるようになっていきます。使用したらすぐ元に戻しますので、紛失は一切ありません。

そして「清掃」です。職場や会社周辺をピカピカに磨き上げることです。雑然としたオフィスでは、効率の良い事務処理はできません。汚い職場からは良いアイデアやより良い商品や製品は生まれません。

B社では、「汚い」というイメージを払拭するために清掃に力を入れています。社員的身なりにも清潔さが表われて、「明るくて気持ちのいい会社」と評判になり、売り上げも順調に伸びています。

## 3Sを徹底して 一年を締めくくる



絵・今谷 鉄柱

C社では、マンネリ化した社内の空気を改善するため、社員全員が参加する清掃を毎日続けています。社員間の絆が強まり、何事にも積極性が生まれ、イキイキとした明るい職場に変わっています。

こうした3Sの実践ができていないために、商談が流れることもあります。

D社を視察した取引会社は、「汚い工場だ。3Sができていない。こんな工場では品質を維持できない」と判断しました。つまり、仕事を任せられないという結果になりました。以下は後始末の実践のポイントです。

### 一、早く、きちんとする

後始末ができていない人は、グズグズしてすぐやらない人です。後始末は気づいたらすぐやるのが決め手です。

### 二、物を活用して、整理・整頓・清掃する

物は生きています。道具や事務用品などの効能を最大限に活用しましょう。次の行動がよりスムーズになります。

### 三、報恩を自覚する

全ては天地自然の中に生かされています。「ありがとうございます」「お世話になりました」と、物により生かされていることへの感謝を深めましょう。

来年の干支である「馬」は、昔から縁起のいい動物として多くの人々に愛されてきました。今年のうちに後始末をやり遂げ、天馬のように駆け抜ける一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。